

碓高原牧場「ふれあい広場」がオープン

- 碓高原の観光シーズン到来！ -

碓高原牧場の「ふれあい広場」が4月14日にオープンしました。今冬の豪雪でオープンが危ぶまれましたが、例年どおりの日程で実施することができました。

地元の保育園児18名が、職員とともにミニチュアホースやヒツジ等20頭を冬の間飼育していた畜舎から「ふれあい広場」まで移動しました。最初は怖がっていた園児達は、家畜と触れあううちに子ヤギをダッコできるようになりました。



最初はこわごわヒツジを引いて



慣れてくると子ヤギを抱きかかえました

畜産センター
碓高原牧場

(平成23年4月試験研究業務月報)

試験研究課題：鶏肉の食中毒細菌汚染を生産段階で抑制する技術開発

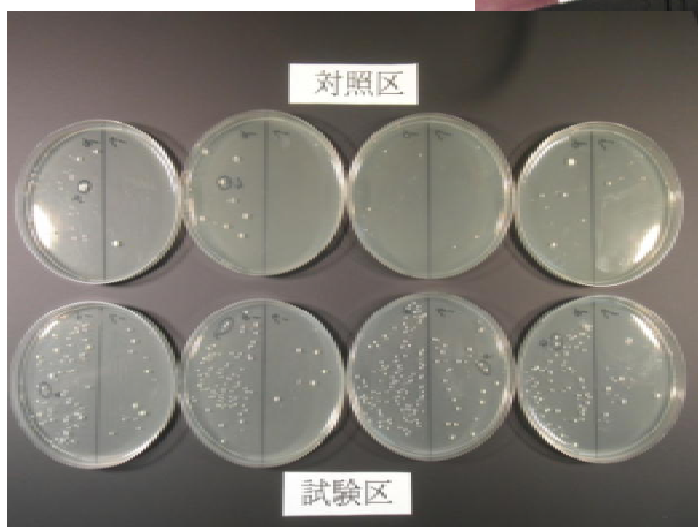
研究

カンピロバクターによる食中毒の減少を目指して

- 鶏のカンピロバクター感染抑制飼料の実用化に向けて -

当センターでは、鶏へのカンピロバクター感染を抑制する機能性飼料の研究に取り組んでいます。これまでに開発したプレバイオティック機能を有する飼料は、鶏への給与試験を行ったところ、盲腸内で有用細菌であるビフィズス菌を選択的に増殖させ、腸内環境を整えることが確認できました。

本年度は、開発した機能性飼料がカンピロバクターの感染を抑制する効果について検証し、実用化を目指します。



機能性飼料を給与した「試験区」はビフィズス菌が増殖



機能性飼料の給与試験

カンピロバクター(細菌)は、平成22年度に発生した食中毒の28.8%を占め、ノロウイルスの31.8%に次いで2番目に発生が多い食中毒原因物質です。また、カンピロバクター食中毒の疫学調査結果から、主な推定原因食品として、鶏肉関連調理食品が強く示唆されています。

プレバイオティックは、消化されにくく、大腸内の特定の有用細菌の栄養素となる成分で、有用細菌を増殖及び活性化させることで、有害細菌の増殖を抑制し、人や家畜の健康を改善します。

畜産センター

(平成23年4月試験研究業務月報)

試験研究課題：中山間地等における飼料米の産地成立要件の解明（地域資源循環型耕畜連携を支援するための飼料米及び鶏卵生産技術の開発）

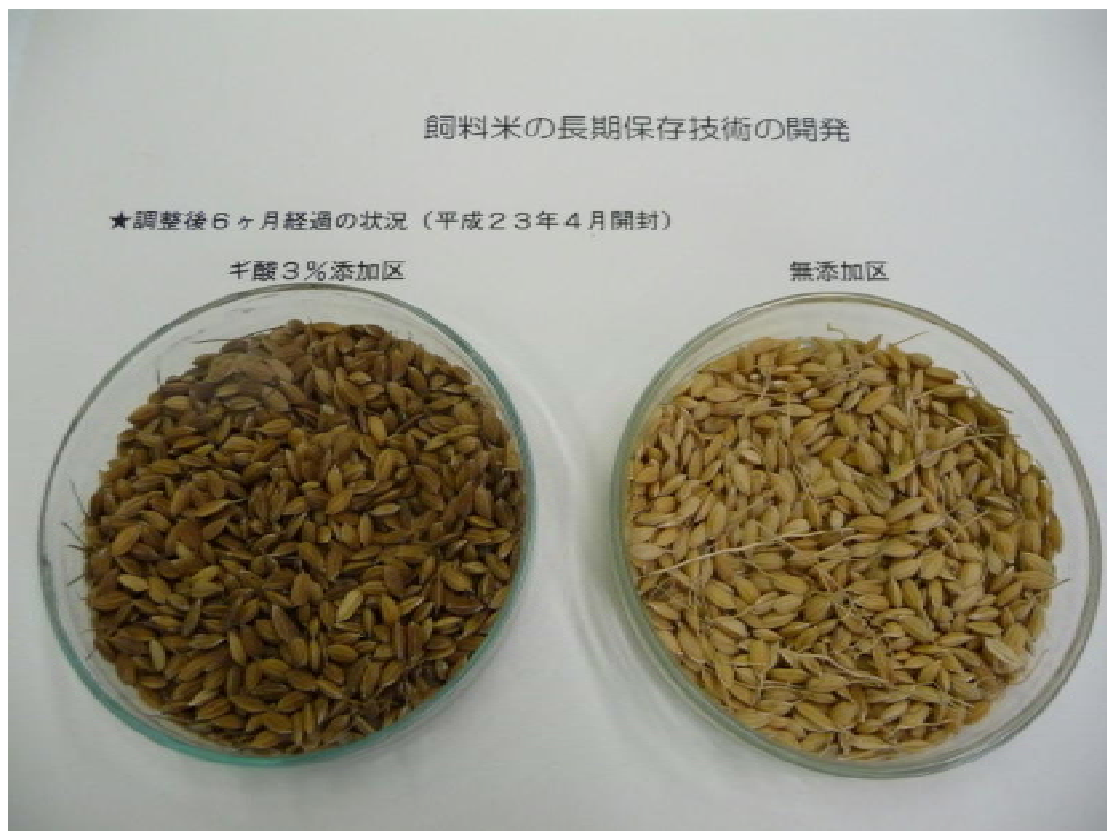
研究

有機酸を添加した飼料用モミ米の保存性調査

当センターでは、飼料米の貯蔵コストの低減を図るため、収穫したモミ米に有機酸を添加し、乾燥工程を経ない長期保存技術の開発に取り組んでいます。

モミ米は、収穫後に有機酸のうち飼料添加物として認可されているプロピオン酸またはギ酸を添加し、通気性のあるフレコンバッグに詰め室内で常温保存しましたが、6ヶ月を経過してもカビの発生や変質は見られませんでした。

今後は、特に飼料が変質しやすく害虫発生が懸念される梅雨や夏の時期の保存性を検討します。



モミ米への有機酸添加により、カビなどの発生がないことを確認

牛肉の高品質化のためのモニタリング調査

当センターでは、府内の和牛肥育頭数(約5,000頭)の約7割を飼養している肥育農家(6戸)の飼養管理技術指導を行っています。

昨年は口蹄疫の発生により、モニタリングした牛は約900頭に留まりました。

今年は、血中ビタミンA濃度を重点的により多く調査し、「京都肉」などの牛肉の高品質化を目指すための指導を行い、肥育経営の安定・向上に努めます。



高速液体クロマトグラフで血中ビタミンA濃度を測定しモニタリングします

肥育牛にビタミンA含量が少ない飼料を与えて血中ビタミンA濃度を抑制することで、筋間脂肪が増加することにより、牛肉の質が向上するため、血中ビタミンA濃度のモニタリングは重要です。

農家所有牛の採胚・移植による「和牛子牛増産」

当センターでは、和牛農家の優良な受精卵を農家の庭先で採取し、その受精卵を乳牛に移植することで和牛を増産する取り組みを支援しています。

去年は、この取り組みでの受胎は43頭となり、一昨年と比べて4割増となりました。

今年度は、「50頭以上の受胎」を目標にし、取り組みをすすめます。



1頭あたり約1時間で受精卵を採取します

農家の経営向上を支援

碓高原牧場では、4月18日から21日にかけて、府内の農家から乳用子牛28頭（ホルスタイン種26頭、ジャージー種2頭）を導入しました。

この取り組みでは、導入牛を広い放牧場を駆け回ることによって足腰の強い牛に育て、和牛の受精卵を受胎させることで、酪農経営の所得向上と和牛生産の拡大を図ります。導入牛は、今年、または来年の秋に導入元の農家に譲渡します。



到着した子牛

レンタカウの放牧開始

舞鶴市で5年目の取り組みとなる「レンタカウ」の放牧が、4月25日から始まりました。

畜産センターでは、今年も、碓高原牧場の牛を貸し出す「レンタカウ」と畜産農家の牛を貸し出す「サポートカウ」で、地域の耕作放棄地の保全や獣害防止などにより、地域の活性化を支援します。



地域の人に歓迎される2頭のレンタカウ

畜産センター
碓高原牧場

春を告げる牛の放牧

碓高原牧場では、4月5日に牛20頭の放牧を始めました。

大雪の影響で草の生育が遅く、昨年より8日遅い、残雪の中での放牧開始となりましたが、牛たちは、久しぶりに青草を食べ、満足そうでした。



雪が残る放牧地の草はまだ少い状態